



## タワーブリッジ

ロンドンの象徴とも言えるタワーブリッジは、1886年から1894年にかけて建築されました。19世紀後半、ロンドンの街が栄えるにつれ、ロンドン橋の下流に新たな橋が必要になりましたが、上流に港があったことから、船の通行を妨げないよう、このような跳開式の可動橋が建設されることとなりました。50以上のデザイン案から選ばれたのが、現在のタワーブリッジの姿で、今でも現役で1日に平均2回ほど可動しています。橋の上段は最初歩行者専用通路として作られましたが、現在は観光客のためにガラス張りの歩道橋として公開されています。地下では橋の開閉に使われていた水圧式エンジンを見学できるほか、タワーの頂上にある博物館ではタワーブリッジの歴史を学ぶこともできます。



## 世界の地域から ロンドン (イギリス)



### セント・ダンスタン・イン・ザ・イースト・チャーチ・ガーデン

教会の廃墟を庭園として再生させたこの場所は、タワーブリッジにもほど近く、その印象的な姿からフォトスポットとしても注目を集めています。教会は1100年に建設され、その後1391年には南側の通路、1700年前後にはタワーと尖塔が増築されましたが、1666年のロンドン大火で深い損傷を負いました。その後一旦は修復されたものの、第二次世界大戦で再び大きな被害を受けました。戦後、教会の再建は見送られることが決定、シティ・オブ・ロンドンは1967年に教会の遺構を市民が気軽に憩える庭園とすることを決め、1970年にオープンしました。都心でありながら、ツタの絡まる壁に囲まれた空間は、周囲とは隔絶されたような独特な雰囲気を醸し出しています。